

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37940	
事業名	駐輪場等整備費						
評価担当課	所属名	建)総務部 道路管理課					
	課長名	久米田 真人	担当者名	遠藤仁・成田秀樹	電話番号	011-211-2456	
施策名	主	多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	歩行者、自転車及び自動車が安全に共存する環境を実現し、まちの魅力向上に寄与する。				
		長期	路上の放置自転車や、歩道等無秩序に通行する自転車を減らし、自転車利用の適正化を図る。				
	取組内容	自転車の乗り入れが多い都心部や地下鉄・JR駅周辺では、路上に放置された自転車によって歩行者の通行が妨げられているほか、ルールを守らずに通行する自転車によって、歩行者が安心して通行できない状況であるため、駐輪場や自転車通行空間を整備して、適正な自転車利用を促す。					
実施結果	駐輪場整備においては、都心部では西2丁目線地下駐輪場(1,354台)が完成し、令和4年4月1日から供用を開始するとともに、南2西3再開発駐輪場の整備を継続。郊外駅では東区役所前駅第3駐輪場(142台)が完成。地下鉄白石駅において、地下駐輪場の増強(265台)を行うとともに、北海道の河川改修工事にあわせて駐輪場の再整備(150台)を行った。 通行空間整備においては、都心部を対象とした整備計画で選定した整備路線のうち、北3条線や東3丁目線など約8.8kmを整備、北8条線や西4丁目線など約5.2km分の調査・検討を行った。						
事業実施における工夫点	土地利用が高度化している地域では、多額の費用を負担して用地を取得し、駐輪場を単独で整備することは困難であることから、民間事業の取り組みを含めたまちづくり等の計画と連携して必要な駐輪場を整備している。						
対象者	都心部や地下鉄・JR駅周辺の歩行者や自転車利用者			開始	0年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市自転車等の放置の防止に関する条例 札幌市自転車等駐車場条例 等						
他都市の状況	他都市においても駐輪場や通行空間の整備を行い、安全・安心な通行空間の確保に努めている。(令和3年8月末現在駐輪場は調査対象909市区町村で8,883か所を設置。R3国土交通省調査)						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	1,994,723	2,283,969	2,052,682	703,822	
うち特定財源	1,739,500	1,737,020	1,368,390	365,334	
人工	5.5	5.5	5.5	4.5	
人件費	39,600	39,600	39,600	32,400	
計(事業費+人件費)	2,034,323	2,323,569	2,092,282	736,222	
事業費の内訳	令和3年度決算	西2地下駐輪場整備…1,562,513千円 南2西3再開発駐輪場負担金…133,459千円 北1西6暫定駐輪場賃借料…38,877千円 郊外駐輪場整備…123,433千円 有料ゲート設置…42,622千円 通行空間整備…131,949千円 その他…19,829千円			
	令和4年度予算	西2地下駐輪場地表部復旧…80,690千円 南2西3再開発駐輪場負担金…112,808千円 北1西6暫定駐輪場賃借料及び工事…65,634千円 札幌駅周辺暫定駐輪場検討…59,932千円 郊外駐輪場整備…121,256千円 有料ゲート設置…141,822千円 通行空間整備…110,000千円 その他…11,680千円(R3予算のうち、141,822千円はR3⇒R4に繰越)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	新設した公共駐輪場の数(年度毎の目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	3	2	3	3	
活動指標2	指標名	新設した公共駐輪場の施設容量台数(年度毎の目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	1,383	580	1911	1050	
成果指標1	指標名	都心部の路上放置台数(現況変化に起因するため目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	2,863		2,649		
成果指標2	指標名	駅周辺の路上放置台数(現況変化に起因するため目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	3,982		2,597		
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	都心部では、西2丁目線地下駐輪場が完成し、令和4年4月から周辺を放置禁止区域に指定している。また、南2西3再開発駐輪場の整備を継続。郊外駅では東区役所前駅第3駐輪場が完成し、令和4年4月から周辺を放置禁止区域に指定している。また、地下鉄白石駅において、地下駐輪場の増強を行うとともに、北海道の河川改修工事にあわせた駐輪場の再整備を行った。通行空間整備においては、都心を対象とした整備計画で選定した整備路線のうち、北3条線や東3丁目線など約8.8kmを整備した。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	目的達成のため、自転車の乗り入れが多い都心部や郊外駅を中心に駐輪場整備を進めている。これらの地域では、駐輪場用地の確保が難しいなどといった課題があるため、課題を解消できる見込みのある箇所から順に、計画的に事業を実施することとしており、現在の事業規模は適切と考える。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	土地利用が高度化している都心部では、多額の費用を負担して用地を取得し、駐輪場を単独で整備することは困難であるため、南2西3等の再開発事業に合わせた駐輪場整備を行い、コスト削減に向けて、効果的、効率的な整備に取り組んでいる。また、郊外駅では、民有地等、新たな用地を取得し駐輪場を整備する場合や、既存の駐輪場用地の中で、例えば2段式ラックを設置するなど、状況に応じた整備を行い、駐輪容量の確保に努めている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	B	駐輪場の整備により、放置自転車の解消を望む近隣住民のニーズにこたえることが出来た。一方で、駐輪場の容量が不足している駅周辺では、放置自転車対策に関する要望は依然として寄せられている。また、最近10年で市内の全自転車事故件数は約3割減少したが、自転車対歩行者の事故件数に減少傾向は見られない。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	都心部や駅周辺では駐輪場用地の確保が困難なため、これまで採用してきた手法のほか、国有地を活用した官民連携の手法などを組み合わせて、駐輪場の整備に取り組む。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	「札幌市自転車利用総合計画」に基づき、放置禁止区域の拡大や再開発に合わせた駐輪場整備などの総合的な駐輪対策、自転車通行空間の整備を進めている。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 放置自転車の多い地域では駐輪場用地の確保に努め、乗入台数に見合った駐輪場の整備を進める。また、自転車通行の課題が多い都心部に加え、都心部以外の駅周辺についても自転車通行空間の整備を進める。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充    ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 事業進捗に応じた執行となる。		見直し効果額	0 千円